

発行 中央大学学生会「白門50会」支部
 編集 広報部会 外村幸雄(法・政治) 山下史雄(法・政治)
 投稿/連絡 山下史雄 E-mail: grande8131pescad@kub.biglobe.ne.jp
 ※投稿は電子メールで。電子メールの写真は、jpeg をお願いします。

年間三事業を確実に行う

会長を拝命して二年目になる。当初より、年間事業を三つに絞り、各事業をきっちりとやっていたと決めていた。その三事業とは、一つは正月の箱根駅伝応援であり、二つ目は6月

の総会であり、三つ目は10月のホームカミングデーである。それぞれの事業の準備のためそれぞれ三回の役員会を開くことにより年間六回の会合となる。
 (会長 山井 俊昭)



ホームカミングデーに集合

- 1、順大……………11時間05分29秒
- 2、日大……………11時間11分42秒
- 3、東海大……………11時間12分07秒
- 4、日体大……………11時間16分44秒
- 5、東洋大……………11時間16分59秒
- 6、早大……………11時間17分29秒
- 7、駒大……………11時間18分09秒
- 8、中大……………11時間18分41秒
- 9、専大……………11時間18分42秒
- 10、亜大……………11時間19分14秒

第83回箱根駅伝総合成績

- 11、城西大……………11時間20分50秒
- 12、山梨学院大……………11時間21分27秒
- 13、中央学院大……………11時間21分30秒
- 14、大東大……………11時間25分30秒
- 15、法大……………11時間27分46秒
- 16、明大……………11時間27分57秒
- 17、神大……………11時間33分20秒
- 18、国学院大……………11時間34分09秒
- 19、国士大……………11時間36分30秒
- 20、学連選抜……………11時間41分53秒

中大8位「シード」守る

※ 駅伝は10人がそれぞれ力を出し切り、たすきを繋いではじめて成り立つ競技だ。一人一人が全力を尽くさなければ総合的な好成績は得られない。たすきを繋ぐという意味では、あらゆる世界でも同じだろう。社長であっても、小さな会の会長であっても、任期中は全力を尽くさなければならない。任期中に力を抜けば、その会社、その会が好成績を残さなくなる。与えられた距離を死ぬ気で走りきる精神は、駅伝に学ばなければならない。

6月の総会だが、例年会員に講演をお願いしている。昨年は、弁護士の根岸さんをお願いし「改正会社法」について話していただいた。一昨年は、社労士の石川さんに年金の話をしていただいた。今年もどなたかをお願いしたいと思っている。同期の仲間が、何を専門としているのか、何に興味があるのか、そしてどんな考え方をしているのか、聞いて知るのもコミュニケーションを図る上では重要だ。せっかく集った仲間なのだから、自分がほぼ30年過ごしたキャリアを披露していただきたいと思う。

例年総会は、駿河台記念館か、またはその周辺、主に東京で開いている。今後移動総会を計り、全国各地で行うことも検討したい。50会の会員は、東京周辺に在住されている方が確かに多く、どうしても東京での会合となってしまう。地方からの参加は、よほどのことがない限り難しい。折を見て、地方に出かけることも今後の検討事項とさせていただきたい。京都や九州に出かけるのもよいではないか。(2面に続く)

多くの会員参加を

箱根駅伝応援は、小涌谷「パイプのけむり」を固定会場としてすでに4年目を終えたところである。箱根の仲間杉本博さんのお世話で、毎年20人枠で予約していただいている。毎年15名くらいの参加であるが、早く定員一杯に集まっていたらいいというのが一つの夢であり、目標だ。

今年の正月は応援用に大太鼓を用意した。新年の箱根に響く太鼓の音で、通過する選手の背中を押した。幟旗も新たに20本並べた。ホテル前の通りは中大通りと思われるほど、他の大学を圧倒している。今年から、往路、復路とも同じ場所で応援することにした。上りは5区の終盤であり、選手にとっても胸突き八丁、後押しとなる声援がどれほどの力になったことだろうか。小旗を振る我々の前でガッツポーズを取ったり、一礼して通り過ぎたりする選手には惜しみない声援を送る甲斐がある。翌朝の下り6区は、スピードも乗りあつという間に通り過ぎる。ここ数年優勝争いから遠のいているが、順位は抜きにして、彼らの走る姿を見ると熱く感動してしまう。 ㍻

(1面から続く) 大学は125周年を迎える。我々学員会にも、寄付金の協力要請がある。50会でも、そこそこの寄付金が集まっている。なんといっても母校が今後も発展することを願わないものはいない。できる限りの寄付をお願いしたい。

125周年を迎える大学では、ますます教学の充実を図るため、多くの事業を計画している。毎年10月に行われる「ホームカミングデー」に是非参加し、現在の大学の様子を確認しよう。50会では、毎年20名くらいが参加し、福引を楽しんだり、学内見学をしたりしている。もちろん、終了後近くの料理屋での宴会もある。

寄付もよろしく

今年も、三つの事業をきっちりやり遂げたいと思うが、そのほか役員会も参加していただきたい。役員会と言っても誰でも参加できる。参加する人がみな役員なのだから。わいわいがやがややりながら、いい知恵を出し、思いついたらすぐ実行しよう。3月の役員会では、6月の総会について話し合った。

役員をかねての花見や、忘年会、ハイキングや、山登りなど、三大事業のほかにもやりたいことはたくさんある。それらは、あくまでもオプションであり、予定の決まっている三つの事業だけは、きっちりやっていきたい。

ぜひとも皆さんの参加をお願いしたい。



多彩な催し友人、

家族で楽しく

▲同期の仲間と話に花が咲く

50会の幟の下で▲

中央大学で小学校教員免許取得が可能に！

明星大学通信教育部の全面的な協力を得て、中等教育の教職課程を履修している本学の学生が明星大学通信教育部において小学校教員免許(2種)を同時に取得することができるようになる。この教育事業提携プログラムへの参加者は、すでに教職課程を履修している現2年生(2005年度入学生)から選抜試験を経て決定される。参加者は卒業と同時に、小・中・高の教員免許状を同時に取得することになる。

参加者の履修上の負担はかなりのものと予想されるが、参加者全員が最終的に小学校免許状を取得できるようにサポート体制も整えられる。個別履修指導、教員による週1回のオフィスアワー、月1回の参加者ミーティング、明星大学スタッフによる出張ガイダンスなどの企画とプログラム総費用の80%が給付される文学部の奨学金制度、さらに論文講座・2次対策講座など様々な採用試験支援を活用して、小学校教員採用試験合格を応援する。

中央大学出身の小学校教員が各地の小学校で多数活躍する日も近い。

昨年10月22日(日) 多摩キャンパスにおいて、第17回ホームカミングデーが開催され、白門50会のメンバーも多数参加し親睦を深めた。

当日は天候にも恵まれ、今回で3回目となる全卒業生を対象としての開催に約3,900名の卒業生が参加した。学員会支部としての参加、個人としての参加はもちろん、家族同伴での参加も数多く見受けられた。

10時15分からのクレセントホールでの開会式には始まり、逢坂剛氏(作家)、葛西聖司氏(NHKエグゼクティ

ホームカミングデーに参加

ブアナウンサー)、松尾正人氏(本学副学長)によるトークショー「私たちの身近な江戸(時代)文化」をはじめ、「寄席の世界を楽しむ」、「本学体育連盟運動部公開練習」、「脳力測定」、「演奏会」、「福引抽選会」、「中央大学法曹界(OB)による無料法律相談」、「社会労務士白門会(OB・OG)による年金・雇用等無料相談会」、「卒業後50年学員対象特別企画」、「子供企画」、「大学史料展」、「似顔絵コーナー」、「呈茶」など盛りだくさんの企画が行われ、ペDESTリアンデッキは各種模擬店・物産店でおおいに賑わった。

(外村幸雄)

自分の両親の介護や看護のことを本紙に書くこと
にためらいの気持ちかはたらいはいましたが、3月
29日の日経新聞の夕刊「妻や親を介護する男性」を
読んで、今私の中で重い位置にある介護のことにつ
いて戸惑いはあるもののこの際述べてさせていただ
こうと思えばプロを打った次第です。

日経新聞の記事の要旨は次の通りです。「いつまで
続くか先が見えない世話を続けるのは介護する側
にも負担が大きい。男性の多くが介護ストレスを内
にためやすい傾向にあり、原因として男はプライド
が高く悩みを他人に打ち明けられない男性特有の
問題が背景にあるのではないかと。ストレスを解消
し孤立を避けるためにも、日々の苦勞を本音で語
り合える場が必要だ。同じ境遇にある介護者が集
う自助グループが都内を始め全国的にできつつあ
る。自分だけがきついのではないと思うことがで
きるようになることであり、一人で抱え込まずに
SOSをすぐ発信することが重要である」との指摘
がありました。

私の父親は85歳、母親は79歳。昨秋までは、
私の故郷・茨城県で一病息災ではないが二人でつ
つがなく過ごしていましたが、暮れに父が肺炎で
入院し肺気腫と診断され24時間酸素を吸入し一
人での歩行が困難になってしまいました。その上、
母が今年早々に自己免疫性肝炎の疑いで入院し
、現在も加療中です。私は、年末に退院した父を
自宅（東京都日野市）に移し家内の協力を得な
がら体力の回復を目指し約2週間一緒に暮しま
したが、自立が困難な老人との生活に介護経験
がない我が家には次第に負担が増え 7



男の介護

塩谷

治史

誰かの援助が欲しいと感じてきました。その
ような中、父の地元での病院に付き添ったとき市
役所の紹介でソーシャルワーカーさんに相談にの
っていただき施設に一時預かってもらえることと
なりました。地獄に仏ではないですが、この時は
本当にほっとしました。その後、父は施設の良
い環境の下順調に回復し杖と酸素の必要はある
ものの一人で歩行することができ、ようやく次の
介護の進め方が見えるようになりました。この間
、1週間に1回程度両親の地元に行き介護の段
取りをすすめてきました。移動は車一人で介護
方向を決めるなど、今振り返ると疲労がたまり
つづけていたようで、時々家内に愚痴が多くな
ったと言われ知らず知らずのうちにストレスを
解消していたようです。

その後、両親に私のそばで暮すよう話を向
けましたが、やはり長年住み慣れた土地を離れ
るのはいやだということで、今は母親の退院を
楽しみに相変わらず両親の地元に通いつづけて
います。この前、父の通院付き添いで病院の待
合所で白門50会の荻沼さんに声をかけていた
だきました。お互い父を伴っていたことで会
話は出来ませんでした。これも何かの縁ではな
いかと感じています。先述の日経記事にもあ
りましたように介護・看護は話しにくい話題
ですが、介護ストレスを内にためないためにも
白門50会のメールやインターネットで息抜き
の場がもてればうれしいなあと思っています。

皆様には、最後まで愚痴話をお聞きいた
だいてありがとうございました。

2007年度入試事情－受験人口減少に受験機会増加策で対応

母校近況



▲集まった受験生たち＝07年入試

2月25日発行の「学員時報」にあるように志願者
数は昨年度に比べて5,000人以上増加し約66,000
人であった。しかし、他の大手主要大学の中では日
本大学と青山学院大学が志願者数を減らしたものの
、その他の大学は揃って増加している。全般的には
小規模大学が志願者数を減らし大規模大学が志願
者数を減らすという二極化傾向が急速に進行して
いるといえる。主要大学で志願者数増加を果たし
ている大学は、学部新設、学部再編など大学改革
を積極的に進めている大学と受験機会を多く与え
るという受験生サービスを軸に志願者を集めている
大学の二類型がある。

受験機会増加策には、センター試験を利用した入
試や同一学部学科を複数回受験できる複数日程入
試、全学部の入試を一日で実施する「全学部日程
入試」などがあるが、なかでも「全学部日程入試」
はこれまでの日程による入試と併せて行うことで
大きな効果を上げている。ただし、そのかなりの
部分が重複出願者であることも確かである。関東
では昨年の立教大学に続いて今年度明治大学と法
政大学が「全学部日程入試」を導入し、さらにこ
の入試を地方会場にも展開した。結果、関東での
志願者数ランキングは①早稲田②明治③法政④日
本⑤立教⑥中央と本学は立教に抜かれ、ランク
を一つ下げている。明治大学は昨年と同様の2位
とはいえ志願者数10万人越えを果たしている。

母校中央大学の来年度入試での巻き返しに期待
したい。

大変遅くなりました。今年も何と
か7号目を発行することができ
ました。皆様のご協力、有難うござ
いました。今号は多くの人が避けては
通れない老親介護の問題や、日本文
化の話もあり、考えさせられました。
齢を重ねることに皆、それぞれの事
情を抱え、程度の差はあれ忙しさと
不安の中で過ごす毎日。だからこそ
一度、昔の仲間に来てみませんか。
本会では多彩な事業を計画中で
す。ぜひご参加下さい。(外村、山下)



四天王寺（大阪）



平林寺総門（新座市）

伝えたい すばらしい文化



毛越寺庭園（岩手）



近所の石仏

古社寺探訪第二次にあたって

高橋 寿比古（法学部卒）

2006年4月に京都に離宮（修学院、桂）そして仙洞御所を見学しました。京都好きの方はお気づきでしょうが、京都御所が抜けていますが、すでに2回訪問しており、今回は外しました。

さて、くどくどと訪問記をここに書くつもりはありません。専門書がたくさんあり、それを読んでいただければ十分だと思います。宮内庁のHPでの申し込みも可能です。あとは是非一度は見学していただきたいと思います。

古社寺めぐりを始めてもう15年くらいになります。「国宝を見る会」を作り、有志で京都、奈良を中心に巡礼してきました。はじめたきっかけは、出張の帰り立ち寄った「東本願寺」に出会ってからです。その建物は大きく、堂々と何百年にわたる歴史を私の目の前に突きつけました。修学旅行以来、日本の文化に見向きもせず、フランスかぶれを自認していたのですが、日本の歴史について何も話せず、愕然としました。その時から京都東山、嵯峨野、大原、鞍馬の寺々、奈良東大寺、興福寺等々の仏像、特に国宝、重文から見始めました。どれも本当に素晴らしく、心が癒されました。お寺に行くと、仏像のある本堂をはじめ塔や、室内には襖絵や曼荼羅、さらに庭園などがあり、

それらを見ているうちに興味を持ち、いまでは専門書が何冊にもなりました。

庭も醍醐三宝院をはじめ一通り見て、国宝建築も四国、中国を除き訪問しました。それぞれが本当に素晴らしく特に桜の吉野の金峰山寺、紅葉の根来寺大塔は最高でした。

そして今度は、日本書紀、古事記の解説書を読むうちに日本のルーツについて知りたくなり神社を訪問するようになりました。まだ数社しか訪れていませんが是非石上、大三神の両社は訪問する予定です。

訪問先では必ず写真を撮り、案内を大切に保存しています。

これからの企画として写真をデジカメで撮り、案内に書かれた英文の解説を英訳・仏訳し、インターネットで発信する計画を進めています。世界に人々にこのすばらしい文化を是非知ってもらいたいと思っています。

最後に私の旅の記録として訪問記を添付いたしますので、ご参考にしてください。

日本文化振興協会（仮称）

国宝を見る会 代表幹事

◆お断り 訪問記（表形式）は50会のWEB上でのみ公開中です。